

いいだ 市議会だより

200号記念号

平成28年8月22日

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町



R30
古紙配合率80%紙



現議場

(平成27年1月から使用開始)

長野県で初めての左右対面式の議場（正面に議長、右側が議員、左側が理事者）。段差のない床となり、災害時には対策本部等多目的な利用ができます。



旧議場

(昭和37年11月から平成26年12月まで使用)

半世紀以上、多くの議員と理事者らが、市政に関して議論を展開してきました。



200号記念号に寄せて

飯田市議会議長 木下 克志

人口減少、高齢化が進み、地方自治の真価が問われる時代。地方創生と称して地方自治体の地域間競争が始まっています。

そんな中「市議会だより」が、昭和46年創刊以来四十数年の歴史を経て、ここに200号記念号を市民の皆さんにお届けできますことを大変喜ばしく思います。

さて、平成14年9月、「飯田市議会在り方研究会」の設置から始まった議会改革の取り組みは、市民と行

政の協力を得ながら、平成19年4月、「飯田市自治基本条例」の制定に至りました。

この条例に基づいた議会改革の取り組みが評価され、同年11月に「マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞。さらに、行政評価や議会報告会の実践により、平成24年には、「マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞し、専門家から、議会改革のトップランナーの一角と称され、今に至っています。これも先輩諸氏の築かれた歴史と伝統の賜物であります

と同時に市民の皆様のご支援とご理解、ご協力があったからこそ感謝を申し上げます。

謝を申し上げます。

市議会の取り組みは、市民の皆様方には、まだまだ理解されていない部分もあると感じています。今後も市民の皆様への負託や期待に応えるべく、開かれた議会の実現に取り組み、二元代表制の一翼として、責任を果たしてまいります。

11年後に開通予定のリニア中央新幹線。同時に、全線開通予定の三遠南信自動車道。これらを活かしたまちづくりに向け、課題は山積しております。この記念号を一つの節目とし、若者が定着し、活躍できるまちづくりを目指して、さらに精進してまいりますことをお約束申し上げます。ご挨拶いたします。



200号記念号を祝して

飯田市長 牧野 光朗

市議会だよりが、昭和46年の創刊以来、数々の歴史を積み重ね、第200号の記念号発行を迎えられたことに、心より敬意を表します。

私の市長就任以来、第5次基本構想基本計画の下で取り組んだ産業づくり、人づくり、地域づくりにおいて、一定の成果を上げることができましたのは、市議会関係者をはじめ、市民や事業者の皆様による「多様な主体による協働」の賜物であ

り、改めて感謝を申し上げます。

この多様な主体が協働する仕組みは、飯田市議会が

主導して制定した「飯田市自治基本条例」によるところが大きいと考えております。この条例は、市民が主体の住みよいまちづくりを推進する新たな自治の仕組みとして、注目されることとなっております。

今、全国の地方都市では、人口減少に加え、少子高齢化が進行しています。国も地方も財政難の右肩下がり時代にあつて、飯田市においては、リニア中央新幹線の開通、三遠

南信自動車道の全線開通を見据えた地域づくりに挑むこととなります。

新たな高速交通網整備により、大都市の活力を採り入れる一方で、「ニッポンの日本」と称される地域固有の環境・文化を継承し、家庭や地域も尊重する人々が住み、子どもたちは、飯田で育つたことを誇りに思い、地域医療や雇用の場が確保され、働き甲斐を感じられる飯田市にしたいと考えています。

そのためには市民の皆さんのご理解とご協力が必要であり、市議会での審議内容や議会活動を伝える市議会だよりが、記念号発行を機により充実されることを期待しております。

市議会だより200号 記念号発行にあたり

昭和46年4月1日に創刊した「いいだ市議会だより」は、45年の歳月を経て200号を数えることになりました。

市議会では、市民の皆様により市議会の活動について、ご理解いただくために記念号を発行することになりました。

平成6年10月に100号記念号を発行していますので、今回の200号記念号では、101号から200号までの22年間を掲載の対象としました。

目次

表紙写真	飯田市議会 議場
2ページ	議長あいさつ／市長祝辞
3ページ	飯田市議会の歩み
8ページ	議会改革の流れ
10ページ	歴代議長は語る
裏表紙写真	平成24年受賞 マニフェスト大賞 最優秀成果賞 賞状とトロフィー

議員名簿

- ① 竹村 圭史
- ② 木下 徳康
- ③ 熊谷 泰人
- ④ 湯澤 啓次
- ⑤ 山崎 昌伸
- ⑥ 森本 政人
- ⑦ 古川 仁
- ⑧ 小倉 高広
- ⑨ 湊 猛
- ⑩ 新井信一郎
- ⑪ 清水 勇
- ⑫ 吉川 秋利
- ⑬ 永井 一英
- ⑭ 木下 容子
- ⑮ 福沢 清
- ⑯ 後藤 莊一
- ⑰ 木下 克志
- ⑱ 中島武津雄
- ⑲ 村松まり子
- ⑳ 林 幸次
- ㉑ 清水 可晴
- ㉒ 井坪 隆
- ㉓ 原 和世
(議席番号順)

議会の歩み

議会だより101号から200号（平成6年から平成28年）までの
主な議会活動を掲載しました。

飯田市議会の動き

飯田市の主な出来事・日本や世界の動き

平成9年 1997	平成8年 1996	平成7年 1995	平成6年 1994	年
・市議会改選（投票率81・9%、上郷町と合併後初、特例による議員数36人から議員定数31人に） ・第1回臨時会において、小林利一議長・片桐司郎副議長を選出 ・市立病院と高松病院の機能・役割分担を検討するために「病院問題特別委員会」を設置 ・風越山麓に計画された送電線建設に対して景観、電磁波、産業振興、飯田市の環境条例などの観点から第2回、第3回定例会において計6件の請願・陳情があり審査 ・市政に関する独自の調査をし、政策提言をする「政策調査研究部会」（農業振興・交通施策・観光施策の3部会）がスタート	・全議員による「基本構想審査特別委員会」を設置、「第4次基本構想・基本計画」環境文化都市を目指して」を可決 ・第2回定例会において「第4次基本構想に基づく組織機構改革案」を否決。この採決をめぐり最大会派の明政会が分裂し過半数を割ることとなった。この議案は第3回定例会で一部修正のうえ再提案され起立採決の結果賛成多数で可決 ・飯田市はあらゆる人権侵害の根絶を誓うため、「人権尊重都市宣言」を可決 ・「病原性大腸菌O157による食中毒対策に関する意見書」を国関係機関に提出 ・市議会議員補欠選挙で1人選出	・第1回臨時会において、今村八束議長・松島年一副議長を選出 ・「中国の核実験に抗議し、フランスの核実験再開中止を求める決議」を可決し両大使館に意見書を送付 ・飯田市における政治倫理の確立のため「市長の資産等の公開に関する条例」を可決。これにより市長は資産等の報告書の作成が義務付けられ、閲覧請求が可能になった ・上郷町編入合併に伴い5人増の36人となっていた議員数を定数31人にすることを議決	・議会だより100号記念号発行 ・今村八束議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問 ・市民の生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るための国土利用計画（飯田市計画）を可決 ・水道料金を12年ぶりに改定。平均アップ率18・7%を三日間の審議の末に可決 ・上郷町との合併により、新たな議員定数を調査研究する「議員定数問題調査特別委員会」を設置	・3月三遠南信自動車道「矢筈トンネル」供用開始 ・飯伊広域行政組合発足（飯田広域消防、環境センター等の運営を統合） ・オフトーク通信事業の放送業務民間委託開始 ・飯田市総合運動場（松尾）全面改修竣工 ・市高齢化率20%を超える ・中華航空機墜落事故（飯田市内在住者22名を含む264名犠牲） ・衆議院議員選挙に「小選挙区比例代表並立制」を施行
・国道153号バイパス（市立病院上溝インター）開通 ・市制施行60周年にあたり記念式典、菱田春草「鹿」購入、世界地方都市十字路会議等の事業開催 ・個人住宅への太陽光発電設置に対する無利子融資制度を開始 ・消費税3%から5%に引き上げ ・長野新幹線開通 ・飯田下伊那地域の6農協が合併して「JAみなみ信州」発足	・矢高共同調理場竣工 ・「第4次基本構想・基本計画」環境文化都市を目指して」スタート（平成8年度から17年度までの10年間） ・市役所組織機構改革実施 ・田中秀典市長の3期目がスタート ・24時間対応型巡回ホームヘルプサービス開始（50人が登録） ・さんとびあ飯田と勤労者福祉センター竣工 ・21いいだ環境プラン策定	・阪神・淡路大震災発生（兵庫県南部地震M7.3最大震度7、死者6434名）飯田市は、給水車、看護師等を派遣 ・中心市街地から「西友」撤退 ・飯田運動公園プール「アクアパークIIDA」竣工 ・戦後50年平和記念事業開催 ・「三遠南信サミット&シンポジウムin飯田」開催 ・地下鉄サリン事件発生（死者13名、重軽傷者5510名）		

2003 平成14年	2002 平成13年	2001 平成12年	2000 平成11年	1999 平成10年	1998
「飯田市福祉医療費給付金条例」を可決（全県統一の自動給付方式を導入） - 第1回臨時会において、岩崎和男議長・渡淳副議長を選出 「合併特別委員会」「土地利用特別委員会」「議員定数特別委員会」を設置 「住基ネット関連2議案」を可決（住基カードを希望者に、一枚500円で交付するための条例改正案）	- 行政機関の保有する情報の公開に関する法律が施行されたのに伴い「飯田市情報公開条例」を可決 - 暴走運転をなくし平穏な地域社会を実現するための「飯田市暴走行為を根絶する条例」を可決 「飯田市議会の議員の報酬等に関する条例」の一部を改正する条例を可決（議員の月額報酬3%の引き下げ） 「飯田市議会在り方研究会」を発足 「飯田市差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」を可決 - 菱田春草「菊慈童」及び「牧童」を取得することを可決（取得金額3億5千万円）	- 市議会改選（投票率75・3%、議員数31人の内女性議員6人が誕生） - 第1回臨時会において、西尾喜好議長・牧内信臣副議長を選出 - 飯田市地域交流センター設置条例（本町二丁目に建設中の「トップヒルズ本町」に「りんご庁舎」を設置、及びその管理について定めるもの）を可決 - 水道料金（上水道平均4.0%・簡易水道平均2.7%）の「引き上げの改定」を可決 - アメリカでのテロの犠牲者に対し黙祷し、「同時多発テロを強く糾弾する決議」を採択	「政策調査研究部会」（地方分権・ISO・工業振興3部会）が平成12年度1カ年の研究を報告 - 介護保険制度の施行に伴い関連する12件の条例を可決 - 国民健康保険税事業から介護保険への移行に伴う、「国保税の引き下げ」を可決 - 公共下水道（平均9.8%）及び農業集落排水施設（7.2%）の「使用料引き上げの改定」を可決 - 市議会議員補欠選挙で1人選出	- 平成9年にスタートした「政策調査研究部会」が2カ年の研究を報告 - 第1回臨時会において、小林利一議長・中田佳甫副議長を選出 - ごみ処理手数料として30円から60円を負担する、「ごみ処理費用有料化」を可決 「公共下水道受益者負担金改定」を可決（面積1㎡当たり現行390円から520円に段階的な引き上げ） 「中心市街地総合再生特別委員会」及び「介護保険特別委員会」を設置	- 議員定数削減に続く財政改革で、「議員の各種審議会報酬を辞退すること」を全会一致で可決（全国的に先駆的であり、県下初） 「インド並びにバキスタンの地下核実験に対する抗議の決議」を可決 - 第3回定例会において、人形劇カーニバルのあり方について活発な議論を展開 「大型店の元旦営業自粛に関する決議」を可決し、市内大型店に申し入れ
- 飯田市・喬木村・上村・南信濃村の4市村、任意合併協議会設立 - 飯田市歴史研究所オープン - りんご並木50周年記念事業が行われる - 環境ISO自己適合宣言	「平成記念かざこし子どもの森公園」が開園 「新桐林クリーンセンター」が稼働 「天竜川上流部川路・龍江・竜丘地区治水対策事業」完成 - 冬季ソルトトレックシティオリリンピック・パラリンピック開催 - 住民基本台帳ネットワークが稼働 - 日本人拉致被害者5名が北朝鮮から24年ぶりに帰国	- 当時観測史上最深となる56cmの大雪により甚大な被害が発生 「トップヒルズ本町」が完成し、「りんご庁舎」オープン - いいだFM開局 - プラスチック製容器包装資源回収開始 - 小泉内閣誕生 - アメリカ同時多発テロ事件	- 市役所として県下初のISO14001認証を取得 - りんご並木通りに三連蔵オープン（アーバンデザイン賞受賞） 「人形劇カーニバル」から「人形劇フェスタ」に運営が変わる - 田中秀典市長の4期目がスタート 4月1日より介護保険制度施行 - 高橋尚子氏シドニーオリンピックピック女子マラソンで金メダル	- 地場産業センター横に「EMCセンター」オープン - りんご並木リニューアルオープン - 南信州広域連合発足 「よこね田んぼ」が「日本の棚田100選」に選ばれる - 健康増進施設「ほっ湯アップル」が完成	- 市民バス運行開始 - 飯田お練りまつり開催（参加43団体、観客25万人） - 飯田市藤本四八写真文化賞（第1回）開始 - 第20回人形劇カーニバル、世界人形劇フェスティバル開催 - 飯田駅前リフレッシュ工事完成 - 冬季長野オリンピック・パラリンピック開催

平成19年 2007	平成18年 2006	平成17年 2005	平成16年 2004	平成15年
- 温泉宿舎天竜峡を飯田市が購入することを承認 「飯田市土地利用基本条例」を可決 「環境文化都市宣言」を可決 - 第1回臨時会において、上澤義一議長・矢澤芳文副議長を選出 - 議員定数の削減にむけて「議員定数特別委員会」を設置し定数を23人に決定 - 飯田市自治基本条例の制定までの取り組みが評価され「マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞	「国民保護法関連2条例」を可決（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律に関連する条例） - 飯田市における土地利用の基本的な指針を策定「国土利用計画」（第2次飯田市計画）を可決 - 第5次基本構想・基本計画の策定にあたり「基本構想基本計画検討委員会」を設置 - 市民・議会・行政の連携により研究を進めてきた「飯田市自治基本条例」を第3回定例会で議員提出議案として全会一致で議決 - 飯田市の各地区に平成19年度から設置される地域自治区について、「飯田市地域自治区の設置等に関する条例」「飯田市公民館条例の一部を改正する条例」を可決	「上村、南信濃村との合併関連6議案」を可決 - 市議会改選（投票率72・3％、議員数27人） - 第1回臨時会において、熊谷富夫議長・林幸次副議長を選出 「自治基本条例」「土地利用計画」の特別委員会を設置 「高等学校改革プランの検討に関する意見書」を県に提出（高等学校数の削減を行わないよう求める意見書） 「個人情報保護条例」を可決 - 一般質問において一問一答方式を試験導入（一括質問一括答弁方式から、一問一答方式に変更） - 上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙（定数2、投票率82％、特例により議員定数27から29人に） - 議会本会議の映像生中継をスタート 「男女共同参画推進条例」を可決	「市議会議員定数を4人減の27人」にすることを可決 「わがまちの憲法」を考える市民会議」を5月に設置 「飯田市都市計画条例」の一部を改正する条例を可決 「わがまちの憲法」を考える市民会議」が11月8日、岩崎和男議長に中間報告を提出 「合併関連2議案」を可決（飯田市・上村・南信濃村合併協議会の設置について） - 市議会議員補欠選挙で2人選出	「歴史研究所条例案」を可決（市民の教育及び文化の向上発展などに寄与するための研究所を設置） 「ごみ処理手数料の改定案」を可決（環境保全対策により経費増のため、半分を利用者が負担）
「川本喜八郎美術館」がトップヒルズ内にオープン - 市政施行70周年の記念式典を開催 4月1日飯田市自治基本条例が施行 「地域自治区」を市内18地区に設置し自治振興センターを開所 - 市立病院高松分院が閉院し、市立病院高松診療所を開所 - 飯田市消防団が日本消防協会最高栄誉特別表彰「まとい」を受賞 - 安倍首相突然辞任。福田内閣発足	- トップヒルズに観光拠点施設まちなかインフォメーションセンターが誕生 - 信州大学工学部を始め11団体とパワーアップ協定を締結し自立化支援宣言を受ける - 一般廃棄物最終処分場の建設工事開始（グリーンバレー千代） - 結いターンキヤリアデザイン室を設置 - 飯田市自治基本条例制定 - 長野県知事選挙で、村井仁氏が当選	- 上村及び南信濃村と合併 - 自転車レースを誘致（ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージ、全日本実業団サイクルロードレースin飯田を開催） - 地域経済活性化プログラム策定、合同事務所の設置 - 日独地域国際化サミット開催 - 社会福祉法人千代しやくなげの会設立、千代保育園を経営移管 - JR福知山線脱線事故（死者107名、負傷者400名以上） - 衆議院選挙で自民党率いる与党が326議席獲得し圧勝 - 耐震偽装問題発覚	- 橋南第2地区市街地再開発ビル着工 - 飯田お練りまつり開催（参加40団体、観客28万人） - 飯田市長選で、牧野光朗新市長誕生 - 自衛隊がイラクへ派遣 - アテネオリンピック・パラリンピック開催 - 新潟県中越地震発生（M6.8最大震度7、死者68名）	- アメリカ軍がイラクへの攻撃開始 - 日本郵政公社が営業開始

平成24年 2012	平成23年 2011	平成22年 2010	平成21年 2009	平成20年 2008
「議会改革・運営ビジョン」を策定し新たな議会改革の取り組みとして常設の機関「議会改革推進会議」を設置 - 議会改革の一環として、初の「議長記者会見」を開催、委員会の自由傍聴の実現、本会議のインターネットによる映像配信を開始 - 新庁舎実施設計を了承 「第7回マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞（行政評価や議会報告会の実践などを評価される） 5回目の議会報告会を開催（市民461人が参加）	- 第1回定例会において東日本大震災支援のための22年度補正予算を可決 - 第2回臨時会において、上澤義一議長・村松まり子副議長を選出 - 東日本大震災支援のための23年度補正予算を可決 「飯田市国民健康保険条例の一部改正条例」を可決（2年連続平均7%の増額） - 損害賠償に係る議会未提出案件（110件）について議会を軽視するものとして市側に改善申し入れ 「第5次基本構想基本計画後期計画」を可決（人口目標10万2千人に） 4回目の議会報告会を開催（市民444人が参加）	- 本庁舎の建替整備に向け調査研究を行うため「庁舎特別委員会」を設置 「飯田市リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金条例」を可決リニア中央新幹線の実現に向けた取り組みを強化 - 年度内にルート決定が見込まれる中、調査研究を深めていくため「リニア推進対策特別委員会」を設置 「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決子どもの支給対象を中学3年生まで引き上げ 3回目の議会報告会を開催（市民469人が参加） 「飯田市地域自治区の設置等に関する条例の一部改正条例」を可決（上村及び南信濃地区を地域自治区に移行）	「副市長の定数を1から2に改める条例」を可決 「土地利用計画特別委員会」を廃止 - 市議会改選（投票率64・3%、上村・南信濃村との合併特例による議員数27人から議員定数23人に） - 第2回臨時会において初の立候補制による正副議長選挙を実施。中島武津雄議長・清水可晴副議長を選出 「リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議」を賛成多数で可決 - 市内6ブロックに分け2回目の議会報告会を開催（市民487人が参加）	「飯田市後期高齢者医療制度に関連した条例」を可決（75歳以上の高齢者に新たな負担となるため議論が集中） 「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を小学6年生まで引き上げ） 「飯田市議会の議員の定数を定める条例」を可決（平成21年4月の選挙から定数23人に決定） - 議会議案検討委員会において、ポイ捨ての規制に関する条例制定の必要性を調査 - 決算認定に結びつける議会による行政評価がスタート（行政評価の手法を用い決算を認定） 「庁舎検討委員会」が発足（3回の委員会を経て市側の新庁舎建設の基本的な方針案を了承） - 市内20地区で初の議会活動報告会を開催（市政懇談会終了後30分間）
- 第10回スローライフまちづくり全国都市会議が飯田市で開催 - 小中連携・一貫教育がモデル校（鼎・竜東中学校）でスタート - 牧野光朗市長の3期目がスタート - 山中伸弥京大教授がノーベル生理学・医学賞を受賞（iPS細胞） - 東京スカイツリー開業 - 衆議院選挙で自民党圧勝、安倍内閣発足	- 東日本大震災発生（東北地方太平洋沖地震M9.0最大震度7、巨大津波発生、死者行方不明者1万8455名）飯田市は、給水車、看護師等を派遣、南相馬市の避難者を受入れ - メガソーラーいいだ運用開始 - 飯田大学連携会議「学輪IIDA」設立 - 飯田西中学校がキャリア教育優良学校の文部科学大臣表彰を受賞 - 東日本大震災で福島第一原子力発電所事故 - リニア中央新幹線の建設・営業主体にJR東海が指名される	「メガソーラーいいだ」太陽光発電所を飯田市と中部電力（株）が共同で建設することについて協定を締結 4代目となる新天龍橋開通 - 飯田お練りまつり開催（参加42団体、観客32万人） - リニア中央新幹線飯田駅設置総決起大会が約2千人の参加で開催 - 介護老人保健施設「ゆうゆう」竣工 - 長野県知事選挙で阿部守一元長野県副知事が当選	- 内閣府から環境モデル都市に選定される - 遠山中学校との統合により上村中学校閉校 - 最終処分場（グリーンバレー千代）完成 - 飯田下伊那14市町村による「定住自立圏形成協定」を締結 - 政権交代。第45回衆議院選挙で民主党が308議席獲得し圧勝。鳩山内閣発足	- 三遠南信自動車道飯田山本ICから天龍峡ICの間開通 - 天龍峡百年再生プロジェクト始動（天龍峡百年再生館をオープン） - 北京オリンピックに、飯田市出身初の選手として矢澤一輝選手がカヌースラローム競技に出場 - 南信州マーケティングショップを名古屋市中種区に開店 - 牧野光朗市長の2期目がスタート - 麻生内閣発足

平成28年 2016	平成27年 2015	平成26年 2014	平成25年 2013
・「飯田市議会パネル取扱要綱」「飯田市議会災害対応指針」を制定 ・天龍峡温泉交流館建設に関し、産業建設委員会より自由討議実施後、附帯決議をつけて可決、本会議での委員長報告に対する討論を経て予算案を可決 ・議員提出による「地酒で乾杯を推進する条例（仮称）」の制定を目指し、議会議案検討委員会を設置 ・市が28年度策定する次期総合計画の調査・研究、協議を行うため、次期総合計画検討委員会を設置 ・「上伊那郡宮田村における廃棄物最終処分場建設を許可しない意見書」を県に提出 ・全議員が地元産材のPRを目的に飯田市産ヒノキと遠山杉のネームプレートを作成して着用	・県下初の左右対面式新議場で第1回定例会を開催、第2回定例会から淡路結びの水引を議場正面壁に設置 ・第1回臨時会において、木下克志議長・木下容子副議長を選出 ・「長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例」を議決 ・初の議会出前講座を広報広聴委員会が実施（松尾小学校） ・全議員による政策討論会を経て「だれもが元気で長生きできる…」「地域で子どもを育てる…」を提言 ・「平和安全法制の慎重かつ適正な運用を求める意見書」を国及び関係機関に提出 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（支給対象を満15歳から満18歳に引き上げ） ・木下克志議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問（A V I A M A 総会誘致） ・新教育委員会制度による初の教育長に代田昭久氏を任命することに同意 ・8回目の議会報告会を開催（市民498人が参加）	・議会による行政評価において「農業課合同事務所事業」の廃止、「農作物被害対策事業」「リニア推進事業」「小中連携・一貫教育推進事業」の拡大などを提言 ・天龍峡温泉交流館の指定管理者管理委託を承認 ・「手話言語法（仮称）」等の早期制定を求める意見書」を国及び県の関係機関に提出 ・第4回定例会終了後、議場の新庁舎移転に伴う「旧議場のお別れ会」を開催 ・7回目の議会報告会を開催（市民543人が参加）	・市議会改選（投票率58・3％、議員数23人） ・第1回臨時会において、林幸次議長・木下克志副議長を選出 ・常任委員会を3委員会とし、議員の複数所属をやめ単独所属とする ・より開かれた議会運営のため「広報広聴委員会」を設置 ・委員会審議において初の「議員間自由討議」を実施 ・初の政策討論会を開催（不法投棄対策について市長に提言） ・「ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」を可決 ・「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書」を国関係機関に提出 ・議会による行政評価において「天龍峡温泉交流館管理事業」について、廃止を含め指定管理委託など検討を行うよう提言 ・6回目の議会報告会を開催（市民510人が参加）
・お練りまつり開催（参加47団体、観客35万人） ・平成28年熊本地震発生（前震M6.5最大震度7、本震M7.3最大震度7、全半壊約3万5千戸、死傷者約千9百名）飯田市は、医療救護班5名、罹災証明書発行等の支援のため職員2名を2回にわたり派遣 ・オバマアメリカ合衆国大統領、被爆地広島を訪問 ・イギリスがEU（欧州連合）離脱の意志を国民投票により決定 ・18歳選挙権による初めての参議院選挙が行われる	・市役所新庁舎が開庁 ・バスポート窓口を開設 ・飯田市空き家対策条例施行 ・リニア中央新幹線に係る中心線測量実施 ・こども家庭応援センター「ゆいきっず」開所 ・国道152号小道木バイパス開通 ・マイナナンバー制度はじまる ・大村智北里大特別栄誉教授ら3氏がノーベル生理学・医学賞を受賞 ・ラグビーW杯イングランド大会で、日本は歴史的な3勝	・観測史上最深となる81cmの大雪により甚大な被害が発生 ・南アルプス地域がユネスコエコパークに登録 ・恒川官衙遺跡が国史跡に指定される ・市立病院「周産期センター」、がん診療・緩和ケアセンター」竣工 ・御嶽山大噴火（死者行方不明者63名） ・4月1日から消費税率が5％から8％に引き上げ ・リニア中央新幹線工事実施計画認可	・東和町に新たなラウンドアバウト交差点が完成 ・小中連携・一貫教育が全中学校区でスタート ・「飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」を制定 ・「いいだ成年後見支援センター」を社会福祉協議会内に開所 ・「りんご並木60周年記念式典」を飯田東中学校で開催 ・富士山が世界文化遺産に決定 ・リニア中央新幹線の駅位置（上郷飯沼付近）とルートが公表

議会改革の流れ

平成6年10月の100号記念号発行以来、数々の議会改革がされてきましたが、ここでは市議会が中心となって制定した「飯田市自治基本条例」の制定経過と、今に至る改革の歩みについてまとめました。

議会改革の背景

平成12年の地方分権一括法施行を契機として各地方公共団体は自らの判断と責任の下に行政を実践する必要に迫られた。

平成14年9月
① 飯田市議会在り方研究会

平成15年5月
② 議会議案検討委員会

平成15年5月
議員定数特別委員会

定数31人から27人

平成16年5月
市民・行政の参加による検討
わがまちの「憲法」を考える市民会議

市民と議会と行政がお互いに連携して、飯田市の新しいまちづくりの仕組みやルールを作ることとした。全国で初めてといわれる議会による市民会議。公募委員8人、学識経験者4人、議員8人、行政職員4人の合計24人で構成し、「自治基本条例（仮称）」の制定に向け、自治に関するテーマごとの4つの分科会で検討を進め、中間報告を議会だよりの臨時号に掲載し、市民からの意見をまとめた。

平成17年5月
③ 自治基本条例特別委員会

平成18年9月 飯田市自治基本条例制定（平成19年4月施行）

平成19年11月9日
第2回マニフェスト大賞
審査委員会特別賞を受賞

① 飯田市議会在り方研究会

- ① 民意をいかに汲み上げるか
- ② 政策立案のために何をすべきか
- ③ 議会審議をいかにして改革するか
- ④ 市民に開かれた議会にするには

この4つの観点から、研究を始めた。定数問題については、早急に特別委員会を設置して議論すべきとし、「定数までは結論づけできないが減員すべき」と結論づけた。

② 議会議案検討委員会

議会の政策立案と条例制定権を強化し、活性化を図ることを目的とした結果、自治基本条例制定に取り組むことになった。

③ 自治基本条例特別委員会

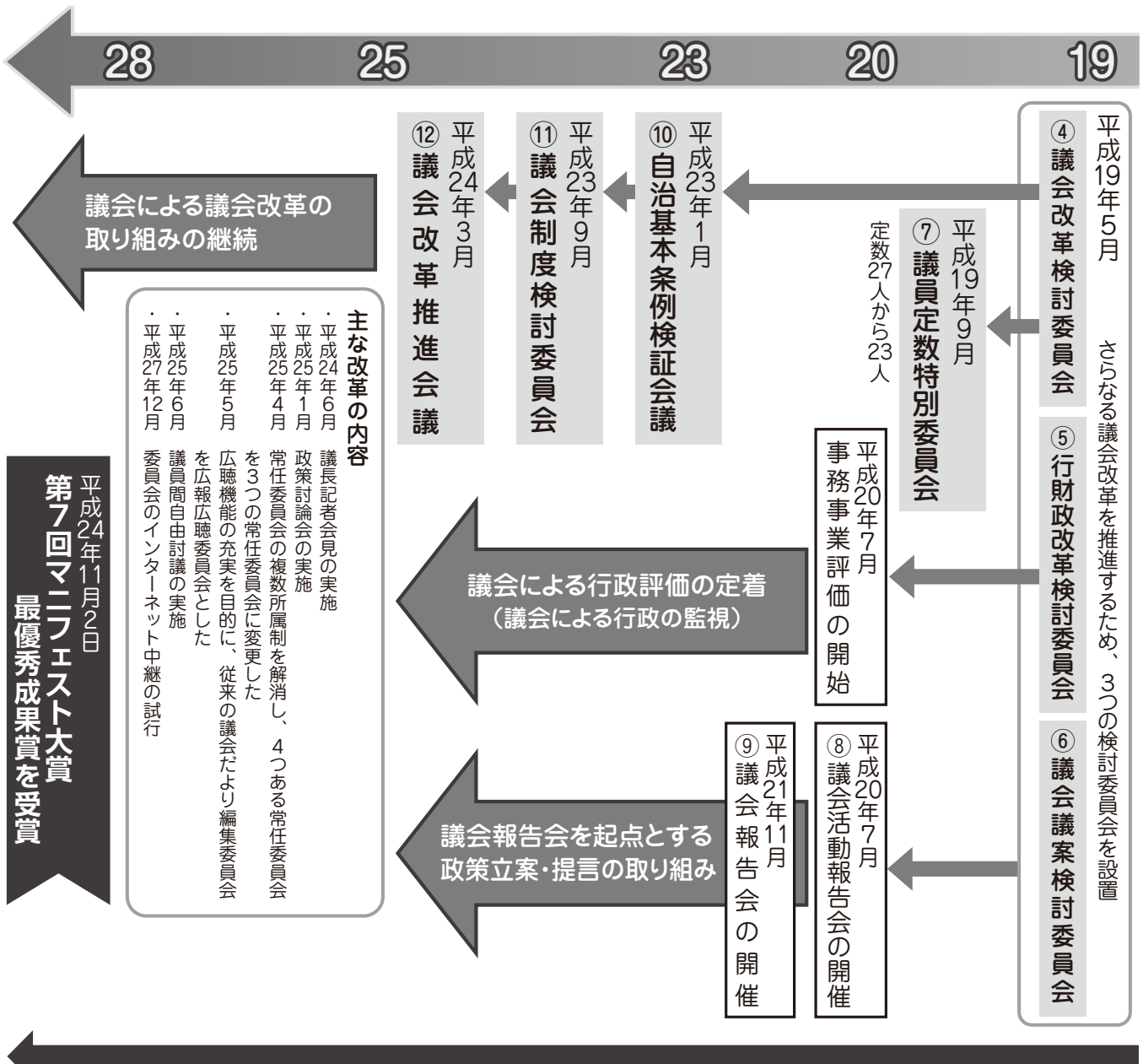
新しい議員構成により、特別委員会を設置。平成17年10月から18年2月から、自治基本条例についての説明会を市内20地区で2回開催。合わせて約3千人以上の参加をいただき、貴重な意見を得た。さらに、パブリックコメントを実施し、市民の意見を条例に反映させた。18年8月条例案を作成して議会に上程、平成18年9月「飯田市自治基本条例」を可決した。（平成19年4月1日施行）

④ 議会改革検討委員会

一般質問における一問一答方式の導入・本会議のCATV中継など改革の実施や政務調査費の情報公開について検討した。平成21年4月の市議会議員改選に向けて、あるべき議員定数について検討するため、特別委員会を設置した。

⑤ 行財政改革検討委員会

行財政改革大綱のチェック機能として、各常任委員会が所管する分野の施策等の評価に取り組む。



⑥ 議会議案検討委員会

自治基本条例の普及啓発に取り組みとともに、議会発議で取り組むべき課題の検討を行う。

⑦ 議員定数特別委員会

議員定数の削減ありきではなく、「議員のあり方の改革」「自治基本条例の更なる推進」などについて議論し、27人を23人とした。常任委員会の委員数確保のため、複数所属制を採用した。

⑧ 議会活動報告会

市政懇談会と合わせ、市内20地区で、自治基本条例制定後の3つの検討委員会での取り組みを中心に市議会の活動について報告を行った。

⑨ 議会報告会

全市を6ブロックに分けて開催。全体会では議会改革の取り組み内容を、分科会では常任委員会ごとの報告をし、その後に議会及び市政に対する意見・要望等について意見交換を行った。市民の皆さんの意見等から、地域課題を抽出し、調査研究を行い、政策立案・提言につなげる取り組みを継続する。

⑩ 自治基本条例検証会議

自治基本条例中の議会・議員の役割について全議員が3グループに別れ検証を行った。リーダー・サブリーダー会議により意見集約を図った。

⑪ 議会制度検討委員会

29項目の課題を抽出し検討を進め、「議会改革・運営ビジョン」としてまとめた。

⑫ 議会改革推進会議

不断の議会改革を推進するために、常設型の委員会として設置。「議会改革・運営ビジョン」にまとめた議会改革実現のための取り組み全般について進行管理することとした。

歴代議長は語る



第11代議長 今村 八束
昭和59年10月～平成13年4月
市議会議員。平成5年5月～
9年4月の間、第11代議長。
平成22年10月逝去。



第12代議長 小林 利一
昭和63年10月～平成15年3月、
市議会議員。平成9年5月～
13年4月の間、第12代議長。

昭和63年、市議会に議席をいただきました当初は、市立病院移転建設をはじめ川路地区等治水対策事業、上郷町との合併等々の市政の区切りという、俗に大型事業の総決算の時期でした。また、この時期は各地で地域おこし、活性化について行政を巻き込んで事業展開する現象が顕著になり、行政の三種の神器（高速道路のIC・新幹線の駅・空港）と高速交通網が不可欠と、誘致に官民あげて運動の展開が思い出されます。

当市では、三遠南信自動車道、リニア駅設置に運動を展開して参りましたが、思い出せば30年前、当時の実験線が小規模であり、現況と比較すると隔世の感がありました。山梨県への実験線設置が決定した時は、実現が大きく前進に向け雰囲気（の盛り上がり）を強く感じました。

リニア中央新幹線も飯田駅設置が決定しました。リニア時代に向かって大きな夢の実現を祈つ

てやみません。飯田市議会だより200号の発行を心よりお祝い申し上げます、併せて関係者各位のご活躍を祈念申し上げます。



第13代議長 西尾 喜好
平成元年4月～平成17年4月、
市議会議員。平成13年5月～
15年5月の間、第13代議長。

今回、市議会だより200号の記念号が発行されることに対し心からお祝い申し上げます。

さて、平成13年5月に議長に就任して、7月には、橋南第一地区再開発ビル「トップビルズ本町」が完成し、8月には、地域交流センター「りんご庁舎」のオープンとなり、市役所本庁から移転した福祉事務所や、幅広い利用時間の証明窓口等々市民サービスが向上しました。平成14年4月には、平成記念かざこし子どもの森公園開園となり、子ども達のすばらしい憩いの場所として、多くの市民の皆さまが利用し子ども達の歓声が森に響き渡っております。9月には、17年の歳月をかけた、恒久的治水対策と新たな土地利用を可能とする天竜川上流部川路、龍江、竜丘、治水対策事業が完成を迎えました。

この大事業は、歴史に残る事業であり、今後も新生の大地を環境と調和する、暮らしや産業の育成に、取り組んでいかなければなりません。

一方、平成14年9月には、飯田市議会「在り方研究会」を立ち上げ、「飯田市自治基本条例」にも取り組みました。まだまだ多くの思い出がありますが、結びに、市議会の取り組みがわかりやすく市民に伝わる市議会だよりでありますように期待し、飯田市の限りなき発展を祈念します。



第14代議長 岩崎 和男
昭和62年5月～平成5年6月、
上郷町議会議員。平成5年8
月～平成21年4月、市議会議
員。平成15年5月～17年4月
の間、第14代議長。

この度、市議会だより200号の発行誠におめでとうございます。市政における議会活動を市民の皆様にお届けする大切な役割があり200号に達したことは意義深いと存じます。

私は平成5年7月飯田市と上郷町の合併による上郷地区の増員選挙により、市議として市政の一端を担うこととなりました。当時町議としての合併議論を思い出しますが、合併23年が経過をし、合併協議事項はじめ、三遠南信自動車道、リニア中央新幹線等市政の進化、議会の発展は誠に感慨深いものがあります。その間未熟ながら議長の実責も担わせていただきましたが、議長当時の思い出深い話題を記したいと思います。

飯田市自治基本条例を制定しようと議会で議題となり、議会が「わがまちの憲法を考える市民会議」を立ち上げ多くの市民の皆様、また、市職員にも参画していただき、専門家の大学教授の指導の下、市民会議メンバー、議会の皆さんの積極的、意欲的な議論を重ね、約3年越しの歳月をかけ飯田市自治基本条例が制定され、現在その条例を基本に市政を進められていることを思うとその重さを感じております。今後の市政の発展、議会の活性化、議会だよりの充実を祈念します。





第15代議長 熊谷富夫
平成5年4月～平成21年4月、
市議会議員。平成17年5月、
19年5月の間、第15代議長。

議会と市民をつなぐ議会だよりが、200号の節目を迎えられ衷心よりお祝い申し上げます。私の16年間の議会活動の中で大きな思い出の一つが、全国に先駆けて議会が中心となって策定した飯田市自治基本条例の制定でした。

平成14年度の「議会在り方研究会」を皮切りに、「議会議案検討委員会」を設置、自治基本条例の制定を目指し、議長に「市民会議」設置を提言しました。平成16年5月、公募8名を含む24名による「わがまちの憲法を考える市民会議」を設置。自治基本条例の基本的な考え方をまとめました。平成17年5月には、「自治基本条例特別委員会」を設置し、2回にわたる全地区との説明会を実施、さらにパブリックコメントの実施、最後に自治基本条例シンポジウムを40余名が参加して開催、自治基本条例の必要性を再確認しました。平成18年第3回定例会に、条例案を議会議案として提出、全会一致で可決しました。その後、全国からの視察が相次ぎ、対応に追われました。可決した時の議長だった私にとって、生涯忘れることのできない議会活動です。

議員の皆様には、ご健勝で、自治基本条例第25条を遵守され、さらなるご活躍をご祈念申し上げます。



第16代議長 上澤義一
平成9年4月～平成25年4月、
市議会議員。平成19年5月、
21年4月の間、第16代議長。
平成23年5月～25年4月の間、
第18代議長。
平成27年5月逝去。



第17代議長 中島武津雄
平成9年4月から市議会議員
として現在に至る。平成21年
5月～23年5月の間、第17代
議長。

「災害は忘れた頃にやってくる」との警句は現在では通用しなくなっていることを痛感させられたのは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災であり、私の議長在任中でありました。我が国では、平成7年の阪神淡路大震災、平成16年の中越地震と、ほぼ10年に一度の大災害を経験してきました。そして、本年熊本地震が発生しました。

行政は市民の安心安全のため、福祉向上のため等行政サービスは多岐にわたっています。が、議会・議員は市民の代弁者として安全で豊かな飯田市になるよう日々活動しています。また、そうなるよう市民の目となり耳となり手足となるべく日々努力しています。

議会だより発行以来45年、定例議会及び臨時議会の様子、結果をわかりやすく市民の皆様にお届けすべく発行を重ねて来ましたが、今後においても開かれた議会、市民の声が届く議会を目指して編集に配慮していくことが大事だと思います。

リニア中央新幹線の営業運転は11年後、大きく

変貌する時代にあっても積み重ねた環境文化政策を磨き育てながら、小さな世界都市を市民の皆さんと共に実現することが飯田市議会の責務です。



第19代議長 林 幸次
平成9年4月から市議会議員
として現在に至る。平成25年
5月～27年5月の間、第19代
議長。

私の議長在任中には、当地域の半世紀に亘る念願であったリニア中央新幹線工事の事業着手が行われ、三遠南信自動車道の整備推進とともに、高速交通時代の幕開けとなる大きな節目を迎えました。また、新庁舎整備事業の一大事業も行われ、新庁舎における新たな飯田市の歴史が始まりました。新しい議場では顔の見える議会として、傍聴席から議員と執行機関双方の顔が見える「対面式」が導入されたほか、永年の懸案であった長期欠席議員の報酬減額を定めた条例の制定や、飯田市議会初の取り組みとして広報広聴委員会による小学校への「出前講座」の実施等々、新たな議会改革が推進されました。

今後リニア時代を迎える飯田市においては、地方創生を確実に進めるための「地方版総合戦略」の推進、リニア駅周辺整備計画の策定、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道開通を見据えたまちづくりの青写真となる「次期総合計画」の策定等々、重要課題が山積しております。

このような時代にあって議会の果たすべき役割と責任は増大していることから、市議会だより200号の発行を節目として、市政の発展により貢献し市民に期待される議会を目指した取り組みが、一層重要になると思います。

第7回マニフェスト大賞 最優秀成果賞 受賞



マニフェスト大賞とは、地方自治体の首長や議会、地域主権を支える市民の活動実績を表彰するもので、マニフェスト大賞実行委員会が主催しています。飯田市議会は、地方議会部門で、第7回（平成24年）に最優秀成果賞を受賞しました。第2回（平成19年）にも審査委員会特別賞を受賞しています。

編集後記

市民の皆様は議会の活動状況をお伝えし、議会に対する理解を深めていただくため創刊された「いいだ市議会だより」は、200号を迎えることができました。記念号の発行にあたり、過去の議会だよりを改めて読み、その時々課題に取り組んできた飯田市政と議会の歩みを知る機会となりました。これからリニア中央新幹線と三遠南信自動車道の開通による大きな変化が予想され、生活スタイルや価値観が多様化するなか、住みやすいまちづくりに向けて議会の果たす役割はより重要となっていきます。市民の皆様と議会の懸け橋になれるよう今後ともご意見ご感想をいただきながら、市議会だよりのさらなる充実に取り組んでまいります。

広報広聴委員会

委員長 村松まり子 副委員長 福沢 清
委員 竹村 圭史 木下 徳康 熊谷 泰人 森本 政人 小倉 高広 吉川 秋利

発行/長野県飯田市議会

〒395-8501 飯田市大久保町2534番地 飯田市議会事務局 Tel 0265-22-4523 Fax 0265-53-8821

E-mail: igikai@city.iida.nagano.jp URL: <http://www.city.iida.lg.jp/>